

第7回東京都北区産業活性化ビジョン検討委員会 議事要旨

- 日 時：令和7年8月25日（月）14時00分～16時00分
- 場 所：北とびあ 15階 ペガサスホール
- 出席者：中村委員長、鈴木副委員長、田中光委員、田村委員、丸野委員、溝口委員、畑川委員、油原委員、田中崇彦委員、佐藤委員、石塚委員、田中和江委員、中林委員、平山委員、吉野委員、佐野委員、山岸委員、市川委員、蒲池委員、雲出委員、田辺アドバイザー（欠席：熊倉委員、鶴頭委員、佐脇委員）

1 開会

2 前回の議事内容の確認、北区産業活性化ビジョン 2026 素案の説明（事務局）

- ・資料2をご覧ください。こちらは、前回の検討委員会の意見を整理したものになる。前回は前半に各部会、後半に合同会を開催したので、各部会と合同会の結論を軸に振り返りを行いたい。
- ・まず、1ページ、第1部会のとりまとめ資料の概要を説明する。北区産業の課題を踏まえた対応策のポイントは、①ブランドイメージの確立・情報発信、②連携促進、変化への対応による経済の好循環の創出、③愛着（シビックプライド）の醸成である。

製造業は、ブランド化による魅力向上、区内企業同士の重層的な連携体制の構築、オープンファクトリーなど事業所と地域との接点創出や相互理解の促進などが必要であり、非製造業・商業は、消費内容の変化への対応、多様な事業主体の連携による地域内での経済好循環の創出、シビックプライドの醸成による地域内消費の促進や新たな客層の誘致、外国人材や学生などの活用、地域キーパーソンの発掘・育成などが必要とまとめている。

その下、とりまとめ資料に対するご意見としては、お示しのとおり、概ねこの内容で問題ないというものだった。

次に、第1部会の将来像案は『産業と暮らし』が調和する循環都市 ～北区への『愛着』が育む産業魅力の創出～」だが、これについては、「循環」という表現が気になる、シビックプライドの醸成という言葉が入った方がよいのではないか、などのご意見があった。

2ページをご覧ください。その他の意見については、時間の関係もあるので割愛させていただく。その下、第1部会の総括としては、とりまとめ資料は、これまでの議論の内容が反映されており、概ねこの内容でよいが、将来像については、先ほど説明した意見があった。

- ・続いて、第2部会のとりまとめ資料の概要を説明する。まず、ビジョン設計のポイントは、①今の課題ではなく、将来の課題をどのようにしていくのかという考え方、②エコシステムとして、地域活性化につながるよう、循環する必要があること、③区民の賛同を得られるかという視点になる。

次に、ビジョンの方向性としては、産業構造を「維持」するのか、「変革」するのかというよりも、これまでの産業構造をより豊かに「発展」させていくやり方が北区らしいということ。

そして、成し遂げたい姿と大切にしたい価値観は、北区愛を育むこと。そのためには、歴史ある産業を観光化したり、ネットワークを構築したりすることのほか、区民が自ら主体的に情報発信したり、教育機関と連携したりすることによって、区民が参画している、区民が発信している、自分たちが北区をつくっているという考えをバックアップしていくような方向性が必要である、ということになる。その下、とりまとめ資料に対するご意見としては、お示しのとおり、概ねこの内容で問題ないというものだった。

3ページをご覧ください。第2部会の将来像案は「区民の参画と区民の発信による北区愛の醸成」だが、これについては、「北区愛」はいいことだが、それを前面に出すと愛情の搾取になるのではないかなど、「北区愛」という表現が前面に出るのはいかがなものか、というご意見があった。

その他の意見については、時間の関係もあるので割愛させていただく。

その下、第2部会の総括としては、とりまとめ資料は、ビジョンの設計や基本戦略など、これまでの議論が反映されており、この内容でよいが、将来像については、先ほど説明した意見があった。

- ・最後に、合同会の意見統合資料の概要を説明する。
全体的に、各部会で出た意見は共通する部分が多いため結果となったこと、製造業・非製造業・商店街・区民に分けて各部会で出た意見を整理し、表現が異なる意見もあるが、趣旨としては共通した意見であること、将来像については次回に議論し決定する予定であること、基本戦略、施策イメージについては事務局で案を作成して次回提示する予定であること、である。
意見統合資料に対するご意見としては、
 - ・各部会で出た意見は共通する部分が多くあった。
 - ・両部会とも非常に似通った意見が出ているということは、北区に根ざした考えをどちらの部会も持っており、だからこそ、北区全体のイメージ像は良いものだと思っているが、茫漠としているという問題認識が共有されたということが重要である。
 - ・大事なことは、北区に住んでいる人達が豊かになるために、ライフイベントに沿った産業発展をしていく、メッシュを細かくしていくことで、何のためにやるのかということを大事にしていきたい。
 などの意見があった。
その下、合同会の総括としては、各部会とも概ね意見の趣旨は共通していること、将来像は次回に議論し決定すること、基本戦略、施策イメージは事務局で案を作成して次回提示すること、である。
- ・前回の検討委員会の整理は以上になる。

(事務局)

- ・続いて、北区産業活性化ビジョン 2026 素案の説明になる。
資料 3 をご覧いただきたい。こちらは、前回の合同会での決定に基づき、これまでの検討委員会の議論をすべて踏まえ、事務局で作成したビジョン 2026 の素案になる。
- ・まず、1 ページをご覧いただきたい。
「本紙の扱い等について」ということで、今回の素案の扱いについて説明している。本紙は、これまでの基礎調査結果や検討委員会での議論をもとに、次期ビジョンの「素案」として、Word で整理したものである。これまでの議論をしっかりと文章にして落とし込むことが本紙の目的である。
一方、最終的に公開するビジョンについては、本紙をもとにエッセンスを凝縮しつつ、デザイン等も入れることで、事業者や区民にも手に取っていただけるように工夫していく。
そのため、本紙では便宜的に第 1 章・第 2 章・第 3 章のように、章立てを設けているが、最終的に公開するビジョンでは章立てや項目の並び等については、分かりやすく見せるために順序の入れ替えをする場合がある。
また、ページの下の方に、ご参考ということで、一般的な産業振興ビジョンの構成をお示ししている。他の自治体では、一般的にはこのような構成でビジョンが策定されている場合が多くなっている。
- ・続いて、素案の全体構成を説明する。
4 ページをご覧いただきたい。第 1 章「ビジョンの概要」になる。ここでは、ビジョンの目的、5 ページにビジョンの位置付け、6 ページにビジョンの計画期間と前回ビジョンの概要を掲載している。
- ・7 ページをご覧いただきたい。第 2 章「北区産業を取り巻く社会経済情勢の変化」になる。7 ページから 12 ページにかけては、基礎調査報告書において記載した社会経済情勢の各項目を掲載している。
- ・13 ページをご覧いただきたい。第 3 章「北区産業の現状と課題」になる。こちらは、基礎調査にて調査した統計データのうち、主に、検討委員会において議論のもととなったデータを抜粋して掲載している。
- ・31 ページをご覧いただきたい。「(2) 検討委員会での議論」になる。31 ページから 34 ページにかけては、検討委員会で意見交換をしていただいた「製造業」「非製造業」「商店街」「区民」の強み・弱みを整理している。
- ・35 ページをご覧いただきたい。35 ページから 37 ページにかけては、検討委員会での議論を踏まえた「北区産業を取り巻く課題」、「北区産業を取り巻く構造的変化」、「課題や産業構造の変化をふまえた対応策」について、それぞれ整理している。
- ・38 ページをご覧いただきたい。「(3) 北区産業の振興に向けて」になる。北区産業の振興に向けては、お示しのとおり、3 つの選択肢が挙げられるが、検討委員会での議論を踏まえると、これまでの産業構造を活かしつつ、環境変化に対応した産業構造に「発展」させていくことが重要になるということ

で、「これまでの産業構造を発展させる」方向性としている。

- ・39 ページは「北区の産業振興における将来像・基本戦略」、42 ページは「施策体系」となっているが、39 ページ以降については、この後ご説明する。

3 議事 将来像及び基本戦略の確認 (事務局)

- ・続いて、次第3「議事 将来像及び基本戦略の確認」になる。資料は、引き続き資料3の39 ページをご覧ください。
- ・「(1) 北区の産業振興における将来像」になる。ページ上段には、前回お示しした各部会の将来像の原案を掲載している。ページ中段には、先ほどご説明した、前回いただいたご意見を踏まえて事務局で修正した修正版を掲載しており、赤字部分が修正箇所になる。ページ下段には、各部会の修正版を統合した統合案を掲載している。

- ・まず、ページ中段の修正版について説明する。

第1部会は、『産業と暮らし』が調和し、多様な人が活躍できるまち ～北区への『愛着』が育む産業魅力の創出～とした。前回も、『産業と暮らし』が調和する循環都市のうち、「循環」という表現に対するご意見があり、また、「交流」というフレーズがよいのでは、というご意見があった。

そこで、「循環都市」という表現について再度検討し、第1部会では、2拠点居住の話や、地方の企業と都市の企業が連携する意味での「交流」のほか、一般住民と製造業が連携してのブランド化や、既存の製造業でブランド力がある事業者と商業との連携のほか、商店街同士の連携の必要性など、多様な事業主体が連携することについてのご意見が多く出ていた。

また、第1部会では、学生や外国人材などの「多様な人材」の活用についてのご意見も多く出ており、「多様な事業主体」や「多様な人材」など、「多様」という表現を用いた方がよいのではないかと考えた。

こうした、区民を含む「多様な人」や「多様な事業主体」が連携し、様々な人が区内で「活躍できる」環境をつくることにより、産業の活性化が期待できると考え、「多様な人が活躍できるまち」とした。なお、「都市」を「まち」に修正した理由としては、「都市」が交通機関や公共施設などのハード面や、行政主導の計画を想起させるものであるのに対し、「まち」は、地域住民が日々の生活をいかに楽しく充実したものにしていくかというソフト面を想起させるものであり、今回のビジョンは、地域住民が主体の一つとなって地域を活性化していくとよいとのご意見が多く出ていたため、「都市」より「まち」の方がより適切ではないかと考え、修正した。

- ・次に、第2部会は、「区民の参画と区民の発信による産業の発展」とした。前回も、「北区愛」はいいことであるが、それを前面に出すことはどうなのか、というご意見をいただいたので、「北区愛の醸成」という部分を、シンプルに「産業の発展」に修正した。

理由としては、今回策定するのは「産業」の活性化ビジョンであること、また、先ほど38 ページで説明したとおり、北区の産業振興の選択肢としては、「これまでの産業構造を『発展』させる」方向であることから、「産業の発展」とさせていただいた。

- ・最後に、ページ下段の統合案について説明する。統合案は、検討委員会において委員の皆様からいただいたご意見を可能な範囲で包含することを目指して作成した。
- ・まず、『産業と暮らし』が調和になる。第1部会では、北区の強みや想定される政策として、「利便性・暮らしやすさ」や「産業と暮らし（生活）の調和」、「職住近接」といった、「産業と暮らしの近さ」に関するご意見が多く出ていた。第2部会では、区民生活に密接に関係するサービス産業の拡充についての意見が多く出ており、こちらも「産業と暮らしの近さ」に関するご意見である。また、行政としても、今回策定するのは「産業」の活性化ビジョンであるため、「産業」というフレーズを前面に出したいと考えている。

以上の理由から、将来像の最初のフレーズとして、『産業と暮らし』が調和とさせていただいた。

- ・次に、「多様な人が活躍できるまち」については、先ほどの第1部会の将来像で説明したとおりだが、第2部会においても、交流を生み出すためのサテライト教室や、商店街の交流を繋げる地域応援団の必要性、アクティブシニアなどの多様な人材の活用など、多様な人がつながって活躍することに関する意見が多かったため、統合案としても、「多様な人が活躍できるまち」とさせていただいた。

- ・次に、「区民の参画と発信」については、第2部会においてアクセレレーター、すなわち、間をつなぐ人、触媒や接着剤となる人や、インフルエンサーなどの発信をする区民の存在が重要であり、情報発信やサテライト教室の設置などにより、地域の魅力向上や子育て世帯の定住促進、地域愛の醸成などを図ることができるのではないか、という第2部会のまとめだった。

区民による「発信」については、第1部会ではあまりご意見がなかったが、これまでのビジョンにはなかった視点であり、今回の新しいビジョンを特徴づける要素にもなると考え、「区民の参画と発信」とさせていただいた。

- ・将来像の締めくくりとしては、先ほどの第2部会の将来像でも説明したように、「産業」の活性化ビジョンということで、シンプルに「産業の発展」として、将来像全体を締めくくっている。
- ・なお、両部会において意見として多く出ていた「北区愛の醸成」や「シビックプライド」、「地域への愛着の醸成」については、第2部会において、「北区愛」を前面に押し出すのはどうなのか、「愛」という言葉は人によって捉え方が異なるのではないかと、「愛」という言葉は、言葉に重さがあるといったご意見があったので、将来像に入れることは控えさせていただいたが、「愛着」という視点が重要であることには変わりはないので、「愛着」の醸成を意識した施策も検討・実施していきたいと考えている。

(事務局)

- ・将来像の説明は以上になるが、将来像と関連性が高い基本戦略についても続けて説明させていただく。
 - ・40 ページをご覧ください。将来像の実現に向けて、お示しの3つの戦略を基本戦略として掲げ、今後の産業振興施策を展開し、北区産業全体の活性化を図っていく。基本戦略についても、これまでの検討委員会におけるご意見をふまえて作成している。
 - ・まず、戦略①「アクセレレーター機能の強化」。従来は産業振興の主体からは遠い位置に存在した区民や教育機関などを産業振興の中に取り込みつつ、様々な主体同士での連携を促進していく。また、産業構造の発展への動きを「加速(Accelerate)」させるために、情報発信やトライアルを促進するとともに、様々な新規事業を実施し、区内産業の活性化を推進していく。「アクセレレーター機能の強化」は、将来像の「区民の参画と発信」と特に結びつきが強い戦略になる。
 - ・次に、戦略②「業容の拡大」。業容の拡大とは、製品・商品・サービスの種類や操業地域が多様化・多角化することを意味する。あらゆる産業が、北区を取り巻く社会経済状況の変化に対して、迅速かつ柔軟に対応できるよう、様々な産業施策をもって多面的に支援していく。区内産業が変化の激しい時代に負けることなく、常に挑戦し前進する姿勢を支援していく。これらを通じて、区民がライフイベントや生活環境の変化に対応した働き甲斐や暮らしの豊かさを享受できるようにしていく。「業容の拡大」は、将来像の「『産業と暮らし』が調和」と特に結びつきが強い戦略になる。
 - ・最後に、戦略③「ネットワークの構築」。異業種・異分野間の交流やネットワーキングの促進により、区内の多様かつ重層的なネットワークをさらに強化していく。区内において、様々な人材や主体が活躍できるネットワークを整備することで、北区産業の発展を下支えする土台を形成していく。「ネットワークの構築」は、将来像の「多様な人が活躍できるまち」と特に結びつきが強い戦略になる。
 - ・ページの下段には各戦略のイメージを図で表しており、それぞれの円の中に施策の方針を掲載しているが、方針については後ほど説明する。
- 基本戦略の説明は以上になる。

(事務局)

- ・それでは、将来像及び基本戦略について皆様からご意見を頂戴したいと思う。
- ここからの進行は、委員長にお願いしたい。

(委員長)

- ・ただいま説明があった部分について皆さんからご意見をいただきたいと思う。最終回になるので、皆さんのご意見がそれなりに反映されているかと思うが、如何か。

(A委員)

- ・将来像の黄色部分が将来像の最終案という理解でよいか。

(事務局)

- ・その理解で問題ない。

(A 委員)

- ・第1部会と第2部会をドッキングさせて、1段目は第1部会、2段目は第2部会を並べている印象である。「子育てするなら北区」というすごく分かりやすいスローガンを掲げたときに、子どもでも分かるから北区は住みやすいとなって、保育園が増えたり、子連れのご家族が増えたりして、スローガンと区民の流入が合致した印象がある。今までの話し合いを全部盛り込もうと思うと全部入ってしまうが、どちらか分かりやすいスローガンにしたら良いと思う。

(事務局)

- ・事務局としては、第1、第2部会のこれまでの想いを総括するような形で、精一杯の案をお示ししたつもりである。A委員からご発言があったが、その他の委員の方からもまずはお考えを聞いてみたいと思う。

(委員長)

- ・他の方、ご意見があれば如何か。

(B 委員)

- ・私は基本的に事務局の案に賛成する。色々ご意見はあろうかと思うが、まずはこの会が産業ということの基本に置いていることが1つ。将来像というのは、おそらくこれから色々な具体的な施策を作っていく上での元となる、源流となる文言であると理解している。逆にいうと、様々な施策を打つための施策自体が全体として包含されていることが重要だと思う。
- ・説明にあったとおり、発展するためには産業界、それから、暮らしという表現が入っており、これは区民の生活等を想起するが、これが連携して協力することが必要だということも納得できる。
- ・それぞれの部会の中で人手不足や、あるいは、なかなか高齢者が上手く動いていないなど「人」がキーワードとして出てきていたので、そういった意味で「多様な人が活躍できる」という表現も良いのではないかと思う。色々な意見があると思うが、良くまとまっていると思うので、私としては賛成させていただく。

(委員長)

- ・確認だが、39 ページで示していただいているのは「原案」、「修正案」、「統合案」と書かれているが、最終的に出すときには統合案だけが出るという考えでよいか。

(事務局)

- ・おっしゃるとおり。今日の時点では経過が分かるようにしている。

(委員長)

- ・そのほか、如何か。

(C 委員)

- ・B委員からもご発言があったが、基本的に前回の部会をまとめた議論の意見は概ね一致していたのではないかと考えている。将来像については、両部会の想いがかなり凝縮されていると感じている。
- ・基本戦略に関して、非製造業については、特に区民生活を支える産業や交流などを育むことが重要であり、生活を豊かにする事業を作っていかなければならないと感じている。
- ・北区観光協会に関しては、観光は単なる来訪者誘致だけではなく、シビックプライドの醸成も考えると、暮らしに溶け込んだ地域経済の振興が重要だと考えている。具体的に申し上げますと、飛鳥山公園、赤煉瓦酒造工場など、北区として非常に誇れる観光資源があると思う。資源を見える化することでシビックプライドが育まれて、それが新たな産業価値へ展開していくという流れを作っていくことが重要である。

基本戦略については、アクセレレーターの話があった。これに関しては観光協会が有償案内人の育成をしている。インバウンドの方、インバウンド以外の方が実際に北区を訪れて、有償案内人の方が観光資源、プラスαでレストランなどを訪れて、活躍の場を作ることが区民による発信と、産業と生活の橋渡しになると思う。

産業観光、地域体験型観光は、製造業だけでなく、伝統工芸も勿論あると思う。北区の商店街の活性化も重要。北区観光協会としては、連携しながら地域主導で展開していくことが有効であろうと考えている。

- ・一昨年から観光協会としては中間支援組織としての機能を果たしている。飛鳥山 150 周年プロジェクトによる飛鳥山公園での催し、星空シアターは、今回は非常に多くの方が訪れた。こういうことを公園や公共空間の利活用に関わっていく中間支援組織として、引き続き団体として連携していきたいと思っている。
- ・以上のことから、いずれも事務局案をベースに整理していると考えている。将来像や基本戦略をもとに施策体系を反映していただくことで、これまで議論してきた課題を発展的な課題と捉えて、産業の活性化及び地域の魅力向上につなげていきたいと思う。観光協会の一員として担えるように頑張っていきたいと思う。

(委員長)

- ・A 委員のご指摘はそのとおりだと思う。京都府の委員会でも、立派な本になって本棚に立てられるのではなくて、中学生が読んでも理解できるようなものにしていく必要があるといった意見が委員会でも出ていた。色々な方が読んでも分かりやすいものを作っていこうというご意見である。前にも同じ意見が出ていて、難しい言葉があったら注釈をつけてくださいなどといったご意見があり、これから作成するときにはそういったご理解をしていただけたらと思う。
- ・他には如何か。

(D 委員)

- ・私は第 2 部会で話し合った内容と製造業という立場から発言したいと思う。統合案として、第 1 部会の案と第 2 部会の案が統合されて、産業活性という意味では非常に良くなったのではないかと考えている。
- ・私も会の中で発言させていただいたが、製造業として、今後ただものを作っていくだけでは企業の発展、産業の発展を目指せないということで、色々な部分で発信やもの売ることにおいて、一般の区民の方々にもスキルを持っている方はたくさんいらっしゃるし、また、商店街等は、販売するという方法に関しては長けていると思う。こういったことが区民の参画になると思うので、発信していただきながら発展を目指すということで、統合案として将来像は非常に良かったと思う。
- ・基本戦略についても、基本的には第 1 部会及び第 2 部会で話し合った内容がまとめられているという形になるので、基本的にはこの戦略を進めていただいていいのではないかとと思う。

(委員長)

- ・他は如何か。

(E 委員)

- ・今回の統合案を拝見して、「区民の参画と発信」についてだが、ともすれば産業の発展というと、事業者と行政がやることで、区民は傍観者で受け身の位置付けになりがちだが、実際は区民が参画や発信をすることによって、商品がいわゆる「バズる」ということもある。「区民の参画と発信」ということを入れるというのは新たな取組みで、現在の不確実性の中で区民がこういったことで大きく取り上げられて、ヒットにつながる可能性もある。そういうことも取り込んだ内容で、今の時代に非常に良いのではないかと。新たなチャレンジ、取組みという印象である。

(委員長)

- ・他の方は如何か。ここはもう少し直した方がいいとか、自分が思っているのとは違うなどがあれば教えていただきたい。よろしいか。

(意見なし)

4 施策体系の説明

(事務局)

- ・続いて、次第4「施策体系の説明」になるが、施策体系の前に「役割分担」について説明する。引き続き資料3の41ページをご覧ください。
- ・北区産業の活性化を図るためには、「区民」、「事業者」、「区」がそれぞれの役割を担い、互いに連携・協力することが重要で、産業活性化の主役は、あくまでも「区民」と「事業者」であり、「区」は全体のコーディネーターやネットワーク構築等の役割を担う。
- ・時間の関係もあるので、ここでは「区民」の役割について説明する。「区民」は、消費者として北区産業を支える一方、起業・創業の担い手でもある。北区産業の活性化に向けて、区内の事業者を知っていただくとともに、様々な面で事業者の応援・支援を行う。また、区民が主体的に情報発信することや多様な人・事業主体とつながって地域活動やイベントに参加して地域を盛り上げていくことも期待される。
委員の皆様の中には「事業者」として検討委員会にご出席いただいている方もいるが、「区民」としても、北区産業にぜひ参画していただきたいと思います。
- ・「事業者」と「区」の役割については、後ほどご高覧いただきたい。
役割分担の説明は以上となる。

(事務局)

- ・続いて、施策体系について説明する。42ページをご覧ください。
- ・施策体系は、将来像及び将来像を実現するための基本戦略に資する施策を位置付け、行政が実施する施策の方向性を体系的に示したものになる。
お示しのとおり、各戦略の下に「方針」を設け、さらに、各方針の下に「施策」を置いている形になる。なお、本日お示しする施策は、主に検討委員会における委員からのご意見や既存施策を基にしたものだが、現時点では例示であり、事業化については今後事務局で検討するので、その前提でお聞きいただければと思う。
また、時間の都合もあるので、施策については、新たな取り組みを中心に、主なものを簡単にご説明したいと思う。
- ・43ページをご覧ください。戦略①「アクセレレーター機能の強化」の方針と施策になる。
まず、方針1「公民連携等による産業の活性化」。区内の様々な地域課題に対して、それぞれの主体が情報やリソースを持ち寄り、様々な主体による連携により課題解決を図っていくことで、区内産業の活性化につなげていく。従来までの立場や関係を超えた公民連携を促進することで、地域に活力を生み出し、持続可能な発展を目指していく。
方針1の施策例としては、枠内に示している、施策1の「公民連携によるエリア価値の向上」や「公民連携プラットフォームの構築」、施策2の「教育機関と連携したサテライト教室の設置」や「商店街の地域応援団の設立」などを挙げている。
- ・44ページをご覧ください。方針2「区民による情報発信とトライアルの促進」。区民による多様な視点から自発的に情報を発信することは、地域産業を活性化させる上でも重要であり、区民が主体的に情報を発信することで、まだ知られていない地域魅力が再発見され、新たな価値創造につながるのと同時に、地域への愛着や誇りを育むことにも貢献する。
方針2の施策例としては、施策1の「インフルエンサーによる情報発信」と施策2の「事業トライアルを促すサロンの設置・運営」を挙げている。
- ・45ページをご覧ください。方針3「新機軸による新たな産業活力の創出」。これまでの産業の枠組みにとらわれず、新たな成長エンジンを創出していくためには、新機軸の導入が不可欠である。新機軸の展開に当たっては、庁内の関係部署とも密接に連携しながら、限られたリソースを有効に活用することで、新たな産業活力の創出につなげていく。
方針3の施策例としては、施策1の「スポーツ関連産業の推進」と施策2の「北区における産業機能の集積」を挙げている。
- ・続いて、46ページをご覧ください。戦略②「業容の拡大」の方針と施策になる。
まず、方針1「既存事業の高度化と多角化の推進」。北区を取り巻く社会経済的な環境が大きく変化する

る中で、産業を担う人材の確保と育成の推進、事業者の経営基盤強化の支援、製品・サービスの高度化や新たな市場の創出の後押し、地域商業への支援を通じて、事業の高度化・多角化を支援していく。方針1の施策例としては、施策1の「ハローワーク等と連携した人材確保支援」、次のページに移っていただき、施策2の「ふるさと納税の返礼品登録の促進」、次のページに移っていただき、施策4の「デジタル地域通貨の導入」や「空き店舗の活用方法の検討」、「商店街・個店の事業承継の支援」、次のページに移っていただき、施策6の「産業観光の推進」などを挙げている。

- ・50 ページをご覧ください。方針2「次世代型経営への対応による持続可能性の強化」。区内企業が持続的に発展していくためには、次世代型経営への対応が不可欠であり、そのための支援は今後より重要になっていくため、AIやIoTといった先端技術活用の促進や事業承継支援に取り組んでいく。方針2の施策例としては、新たな取り組みではないが、施策1の「デジタル化の支援」、施策2の「SDGs達成に向けた取り組みの促進」、次のページに移っていただき、施策3の「事業承継に係る支援機関との連携」や「事業承継の支援」などを挙げている。
- ・52 ページをご覧ください。方針3「北区産業のブランドイメージの形成」。区の産業が持つ独自の魅力と高い技術力を広く知ってもらうことは、地域産業の活性化に不可欠なため、区内企業の持つ様々な魅力を「ブランド」として確立し、その価値を効果的に発信することで、区内企業の競争力向上とビジネスチャンスの創出につなげていく。方針3の施策例としては、施策1の「北区ブランドの創出」や「デジタルサイネージを活用した情報発信・PR」などを挙げている。
- ・53 ページをご覧ください。方針4「創業支援のさらなる推進」。起業・創業を通じて夢を追いかけて、社会や地域をより良くしていきたいと考える方を積極的に応援し、新たな挑戦を志す方が安心して踏み出せるよう、創業へのチャレンジ環境を整備していく。方針4の施策例はお示しのとおりである。
- ・続いて、55 ページをご覧ください。戦略③「ネットワークの構築」の方針と施策になる。まず、方針1「区内での重層的なネットワークの構築」。多様な主体が持つそれぞれの強みを活かし、共通の課題に対する解決策を生み出す共同作業を通じて、単独の主体では成し得ない大きな成果へとつなげていき、また、様々な社会経済状況の変化に負けず、持続的な発展を遂げるための柔軟かつ強靱なネットワークを形成していく。方針1の施策例としては、施策2の「パートナー制度の構築」などを挙げている。
- ・56 ページをご覧ください。方針2「多様な人材活躍の促進」。生産年齢人口の減少が進む中、担い手の確保は喫緊の課題であり、性別、年齢、国籍等にかかわらず、様々な背景を持つ人々が地域産業で活躍できるよう支援する。また、副業・兼業、ワーケーションといった新しい働き方を取り入れ、都市部の専門人材や子育て世代、アクティブシニア層、学生、外国人材など、多様な担い手を積極的に活用する。方針2の施策例としては、施策1の「多様な人材の活用」や「外国人コミュニティと地域コミュニティの交流機会の創出」、「マルチジョブシステムの構築」などを挙げている。
- ・雑駁ではあるが、施策体系の説明は以上になる。

(事務局)

- ・それでは、施策体系についてご意見があれば頂戴したいと思うが、将来像と基本戦略という「総論」については皆様から概ね同意をいただいたので、「各論」となる施策体系については、違和感のある箇所、おかしいと思う箇所のみご意見をいただきたいと思う。ここからの進行は、委員長にお願いしたい。

(委員長)

- ・確認だが、「施策例」はあくまでも例であって、これを実行することが決まっているのではないということか。これはまた別に検討するということか。

(事務局)

- ・そのとおり。

(委員長)

- ・そうすると、施策例について「ここはおかしいのではないか」ということを言う必要はないのではないか。

(事務局)

- ・これは、これまでの検討委員会の中で委員の皆様がこのような発言をされたかどうかということを取りまとめているが、微妙な言い回しや趣旨がこの記載と若干違うのではないかとといった視点でご覧いただければと考えている。

(委員長)

- ・中身に関しても言ってもらってもいいということか。今ご説明いただいた範囲の中で、「ここはちょっと」という部分があればご意見をいただきたいが、如何か。皆さんに見ていただく内容は、42 ページについて意見を出していただければと思う。施策例はまだ決定ではなく、改めて別で検討されるという考えでよろしいか。

(事務局)

- ・これまでの委員のご意見を踏まえて施策の例として記載しているが、最終的には行政で人、お金の問題があるので、そのあたりを8年度に実施するもの、9年度、10年度、あるいはもっと先に実施するもの、そういった区分けを事務局でこれから検討を深めていきたいと考えている。そのため、今日の時点では、これまで皆様からご意見をいただいたものを例としてお示ししているものになる。

(委員長)

- ・それでは、42 ページの部分で議論をいただけたらと思う。施策体系、戦略①～③、方針、施策が書かれているが如何か。

(E 委員)

- ・今の段階で言うべきか悩ましいところだが、現状があって、施策によって何かを改善する意図を持って施策を行うと思う。現状は把握できていて、それを施策によって現状をどう改善するかといった成果の確認のようなことをやれるのかどうか、今後の施策効果はどのように検証していく予定か。

(委員長)

- ・現状の確認と施策の効果、評価検証というご質問だと思う。

(事務局)

- ・ビジョンを策定し、これから年次的な計画に落とし込む予定である。さらに計画に落とし込むだけでなく、落とし込んだ計画の数値、進捗も含めて当該年度中にどの程度進捗があったのか、進捗度などの精査も行う。このような検討委員会の場合は考えていないが、産業振興課の事業の成果を確認していただく場があるので、そういったものを通じてビジョンの計画の進捗は適宜図っていききたいと考えている。

(委員長)

- ・施策例は議論していない内容が出ているので、表現の仕方については、「事務局案」などにしておいた方がよいのではないかと思います。
- ・48 ページの一番上の「デジタル地域通貨の導入」は、確か以前議論したときに、若手の経営者の皆さんから異議が結構出たと思う。逆に、高齢の経営者の方は良いのではないかという意見があった。他の市区町村で実施している内容をもっと評価した方がよいのではないかという意見もあった。
- ・事務局としてこの内容を出すということなら、話し合っていない内容なので、「事務局が考えた施策例」など、見た方が分かるようにしておいた方がよいと思う。施策例に関してはほとんど議論をしていない内容であり、そうすると1つ1つ検討しなければならない。我々が議論した内容は42 ページのため、そのあたりは見た方が分かるようにしておいた方がよいと思う。
施策例を出さないでほしいと言っているわけではないが、ここは議論をしていないので、もし外に出すのであれば、どういう形で出すかによるが、あくまで事務局の案であるということにした方がよいのではないかと思います。

(事務局)

- ・表記については改めて考えさせていただく。我々としても、43 ページ以降の細かな文章表現については、事務局の案で、これまでの検討委員会の中で落とし込むとこのような感じではないか、あるいは、行政として進めていかなければならない内容も中にはある。そういった内容もこちらにラインナップとして、皆様にイメージが沸きやすいようにしたいという考えから載せたものである。現時点では参考として見ていただければと思う。

(委員長)

- ・E 委員の指摘は、すでに実施している施策もあるので、そこはどう成果が出ているのか、ということだと思う。
長野県の事例だと、長野から東京へ事業所が流れているようである。それだけ、東京都の施策が充実しているということだろう。何故東京に行くのかと尋ねると、今は東京の支援施策が非常に良いので、長野県で起業したけど東京に移るといふ企業が出るくらい、現在の東京都の支援策が非常に充実している。ここに書かれていることで既に実施されている部分もあると思うので、今までやってきた内容の評価などがあり、その上で、ということだと思う。
- ・参考例としてイメージをしてもらうのであれば、「施策例」ではなく「参考例」という形で書いていただいた方が理解しやすいと思う。
- ・他の方は如何か。イメージであるという説明があったので、何か皆様の中で、42 ページの部分で如何か。

(B 委員)

- ・様々な施策があるが、どこにでも入りそうな施策があると思っている。逆にいうと、皆さんから色々な意見が出て、やって欲しいことなどがどこかに入っていたら良いのではないかなと思う。そうしたものが 1 つでも 2 つでも入っていることが重要だと思う。
- ・質問は、ここに入っていることで施策として特徴を出さなければならないとか、ここに入っていることによる施策の制約があるのであれば、どこに入れるのかなどを考えないといけないと思う。そういった問題が無いのであれば、良いのではないかなという気がするので、そのあたりを教えていただきたい。

(事務局)

- ・ご指摘のとおり、1 つの項目でも、方針でも戦略でもどちらにも係るような施策例がある。43 ページ以降を見てみると、1 つの項目でもより色の濃い性質の方に当てはめている。2 つ目の要素にも合致する内容は、今回は一番適合する部分が多いところに掲載して、それ以外の部分には「再掲」という表現を入れている。我々としても制約はないと考えているので、基本的にはより濃い性質の方に落とし込んでいけるとご理解をいただければと思う。

(B 委員)

- ・であれば、今の施策体系は網羅的で良いと思う。特段、これが足りないということは思わなかったもので、これはこれで良いと思う。

(委員長)

- ・他の方は如何か。

(F 委員)

- ・56 ページの方針 2 「多様な人材活躍の促進」の部分について、性別・年齢・国籍等の「有無」とあるが、ここは「有無」という表現は必要ないと思う。
- ・E 委員の発言で、現状の確認とそれに伴う計画に対するアクションとそれに対するフィードバックを確認するべきではというご質問に対し、事務局から、進捗を年度ごとに確認していきたいという回答があったが、「進捗」というよりも「達成されるべき 100% 目標がある」などではないか。
今回策定しているビジョンそのものが、どこに向かうかどうかの 100% の完成する目標があるわけではなく、目標そのものがその中で形作られていけば良いというものなので、進捗というよりも、影響や効果を確認するという形でやっていった方がよいかもしれない。100% 必ず達成しなければならないという感じになると、計画的にも方向を見誤ってしまうのではないかと感じた。

(事務局)

- ・ 56 ページの文言については修正させていただきたいと思う。
- ・ 認識が違っているかもしれないが、KPI（重要業績評価指標）の話を E 委員はされていたのかと思ったので、KPI として事業をどこまでやっていくかということに関して、1 年で終わる事業もあると思うが、複数年にわたる事業もあると思うので、そういった意味で、進捗状況はどうかという表現も間違っていないという認識であった。

(F 委員)

- ・ 経済効果を測るという話だと「進捗」という表現以外が良いかもしれない。

(委員長)

- ・ 施策例の部分に関しては後で事務局と議論させていただけたらと思う。いただいたご意見に関しては事務局と正副委員長の方でもう少し議論させていただくということをお願いをしたいと思うがよろしいか。

(異議なし)

(事務局)

- ・ 1 時間が経過したので、ここで 10 分間の休憩を入れさせていただきたい。

(休憩)

5 今後の進め方等について

(事務局)

- ・ 続いて、次第 5「今後の進め方等について」になる。
一般的な産業振興計画では、これまでご説明した将来像、基本戦略、施策体系のほか、計画を推進していくために、KPI、業績評価の指標の設定や推進体制、連携体制を明記することが一般的であり、産業活性化ビジョンにおいても明記する予定だが、KPI 等については、事務局作成のうえ正副委員長に一任し、10 月中旬の開催を予定している産業振興会議に報告することとしたいと考えているが、委員長、そのような取扱いでよろしいか。

(委員長)

- ・ 事務局から、KPI の設定、推進体制、連携体制については、事務局の方で作成したいという提案があったが、このような扱いでよろしいか。

(E 委員)

- ・ 事務局で作成してもらうことは異論ないが、資料 13 ページから「北区産業の現状と課題」があり、この数値を現状認識として KPI を作成するのではないかなと思うが、令和 3 年の経済センサスのデータが多く、コロナで経済活動が大きく落ち込んだときの数値がほとんどだと思う。これを現状としてしまうとかなり歪んだ現状となってしまうので、仮に KPI をつくっても、新しい統計が出たときにアップデートする必要があるのではと思う。

(事務局)

- ・ データ更新については検討させていただく。

(委員長)

- ・ 今年の 7 月は倒産件数が非常に多く、コロナ禍の影響が強く出ている。状況がいろいろ変わってきているので、そのあたりは事務局でご検討いただきたい。
- ・ 他にご意見はあるか。

(意見なし)

(委員長)

- ・ それでは、KPI 等については、今のご意見も反映しながら事務局に作成を依頼し、正副委員長で検討の上、産業振興会議に報告することとする。

(事務局)

- ・検討委員会は本日で終了となるが、ビジョンの完成は今年度末を予定しているので、ビジョンの完成までは、メール等で皆様に情報提供をさせていただきたいと思う。あらかじめご了承ください。
- ・ここで、産業振興会議からご出席いただいているアドバイザーから一言頂戴したいと思う。

(アドバイザー)

- ・これまでの産業活性化ビジョンと違い、皆さんの意見が反映されたものができあがったのではないかなというのが率直な感想である。これまでの産業活性化ビジョンは、事務局とコンサルの会社がたたき台を作って、多少皆さんの意見を入れて、基本的にはそのままというのが多かった。具体例を入れる入れないなどの問題はあがあるが、皆さんの意見が反映されているということについては大きな進歩だと思う。皆さんが本気になって北区の産業をもっと活性化させようという意欲が今回のビジョンを生み出したのではないかと感じた。
石破総理が「楽しい日本」にしようという話をしているので、「楽しい北区」になっていくことが、区民のためでもあり、結果として産業のためでもあるということが実際に具現化できそうなビジョンになったというのが感想である。
議論を導いていただいた先生方のご指導、それをまとめ上げた事務局の努力に敬服を申し上げる。
- ・具体例の中ではスポーツビジネスなどの話も出てきているが、商工会議所の方でもスポーツ&カルチャーというビジネスが地域にとって大切で、こういったものが推進されることによって区民の生活も豊かになるのではないかなという話もしている。
- ・地方の産業振興は、地域の雇用のために産業振興をするというのが圧倒的に多いが、北区のような都市の場合は、雇用に重点を置いてあまり効果がないことからすると、区民参加による区民の生活を豊かにする事業が結果として産業の振興につながるということが明確に打ち出されたビジョンだと思うので、皆さんに感謝申し上げたい。

6 各委員から感想等

(事務局)

- ・続いて、次第6「各委員から感想等」になる。検討委員会は本日で最終回となるので、委員の皆様から、今回検討委員会にご参加いただいたご感想などを一言頂戴したいと思う。
事務局からお一方ずつお名前を呼ばせていただく。お座りになったままで結構なので、一言お願いしたい。委員長と副委員長は最後をお願いし、途中退席予定のG委員から先をお願いしたい。

(G 委員)

- ・私自身北区で生まれて北区で育ち、北区に本社のある企業を経営している。そういった中で、このような機会に携われて非常に貴重だった。ここにいる皆さんのご意見をお伺いできたことは私自身にとっても非常にいい機会だった。
- ・今後も北区で生活するつもりだが、今回提言させていただいた内容が北区に生きて、自分たちの議論の結果でより良い生活を送れるようになれば良いと思っている。

(F 委員)

- ・外部から来た身で大変恐縮であったが、日本経済、世界経済全体が構造変化の真っ只中にあり、そのままではいけないと思っていてもそのままではいけない状況の中で、このようなビジョンを改めて策定して、どこに行きたいのか、逆にここにいたいと思っているのならどこかに進まないところにとどまることができない状況だと思う。
- ・改めて、皆さんが理解の上でこのような議論ができるのだと思った。既に、地元に対する愛を持っていると感じた。その想いを今後どうするのか、ということになると今後具体的な動きがここから始まるのだと思う。とどまるためにも前に進むことが重要であり、地元への愛も交えながら建設的な議論ができたと思う。今後に期待したいと思う。

(H 委員)

- ・非常に楽しい検討委員会であり、発言したくなる会議であったと思う。私は商店街の青年部で活動しているが、夏祭りも含めて色々なイベントに参加している。子どもからお年寄りまで非常に楽しそうに過ごしていただいている。
- ・会議の結果、行政として、産業振興の一部として商店街の活性化、新しいまちづくりを盛り込んでいただいている。行政と共に商連としても今まで良かったものを残しつつ、産業の活性化に着目して動いていければと思う。

(I 委員)

- ・皆さんとの意見交換で皆さんのご意見を聞いて、私自身も勉強になった。今後の商店街活動にも活用できる、アップデートできる知識をいただいてとても勉強になった。H 委員も言われたように、楽しく和気あいあいと、どんな小さなことでも発言できる会議だったと思う。今後の商店街活動に活かして、北区の商店街をより良くしていきたいと思っている。

(J 委員)

- ・検討委員会のメンバー構成やビジョンのテーマも、北区は区民参画という点を重要視されていることを感じ、楽しみだと思う。これからは、一区民として北区の産業、地域の賑わいに貢献できるように頑張っていきたいと思う。なかなか日程が合わず参加できないこともあったが、様々な業種の方々のお話を聞くことができ、仕事の上でも参考になる部分が多かったので、良い機会となった。

(K 委員)

- ・初めてお声がけをいただいた際、普段は子ども向けの活動をしているので、産業ビジョンの委員会に参加してどんなことができるだろうかと思っていた。最終的にできあがった案は、多様な人が活躍でき、色々な方々の声を拾い上げることができるということを感じ取ることができる素晴らしい会だったと思う。
- ・私自身も産業振興課の北区ビジネスプランコンテストがきっかけで活動を始め、5 年ほど経った。色々なアドバイスをいただきながら続けていくことができた。この先は新しく何かをやってみたいと思われる方のサポートが少しでもできるように、北区を盛り上げていくことができればと思っている。

(L 委員)

- ・私は 2009 年に北区産業振興課の支援を受けて、赤羽の創業施設で起業して 15 年経過した。このような場に参加することができて嬉しく思っている。
- ・現在、赤羽マガジンなどを通じて地域の情報・魅力発信を行っていて感じることは、お店や産業もそうだが、視点を変えるだけで魅力は沢山あること。様々な人が情報発信することで多様な視点で北区の面白い部分が活性化して情報流通が進み、より北区が活性化することに期待している。

(B 委員)

- ・ビジョン検討委員会に参加できて大変光栄に思う。委員会に参加することで、全く立場や業種等が異なる方々の声を聞くことができ、委員会での議論は大変勉強になった。今後どのように活かしていくかは分からないが、糧にしたいと思う。
- ・アドバイザーから「意見が反映されている」と客観的な話を聞いて、委員会に参加することでお役に立てたのではないかと嬉しく思った。

(D 委員)

- ・普段は製造業で、同じ経営者の方と話をする機会はあるが、商店街や区民の方、色々なことをやられている方と話す機会が少ないので、参考になるような話もあり非常に良かった。少しでも自分の意見が内容に盛り込まれたということがあれば、参加した意義があったと思う。
- ・せっかくビジョンを作ったので、事務局としては今後広く周知していただいて、より良い北区になるように少しでも頑張っていたいただければと思う。

(M委員)

- ・今回の委員会で多くの学びと出会いをいただいた。皆さんの「こうありたい」という意見をまとめると、北区はまだまだ伸びしろが大きいと改めて感じた。北区の未来を真剣に考えている皆さんと一緒に議論できたことは大きな財産だった。
- ・本日で委員会は一区切りと思うが、むしろここからがスタートではないかと思う。学んだことや色々な情報を得たことについて、製造業でどのように反映させるかを考えながら、地域のために少しでも力になればいいと考えている。

(C委員)

- ・議論の中では観光施策に関する様々なご意見を頂戴し、大変参考になった。北区観光協会としてはこれまでの議論の中で観光の産業化、シビックプライドの醸成、中間支援組織としての役割として3点に注目して話をした。
先ほどご意見もあったが、地域の歴史や文化を知り、語り合うことを通じて、区民の一人一人が北区に誇りを持つことができれば、これこそがシビックプライドの醸成につながるのではないかと考えている。
- ・素案については、観光の力を活かせる視点が多く盛り込まれていると感じている。今後ビジョンについても、北区観光協会という立場としてしっかり貢献をしていきたいと思う。

(N委員)

- ・皆さんのご意見は個人にとっても非常に新鮮であり、参考になった。普段はまちづくりの分野で北区とも色々と仕事をしており、産業については初めてだったが、思っていたよりまちづくりと産業は重なる部分が多いと思った。
- ・北区の中でもまちづくりと政策をより整合させていかなければならないと思う。私自身も今後仕事を続ける上でまちづくりにフィードバックができたらと思っている。まちづくり・産業活性化の両面で頑張っていきたいと思う。

(O委員)

- ・北区にある本社で事業をしており、北区の産業についてご意見をいただき非常に参考になり勉強にもなった。施策内容としては、金融機関と被る部分も多いので、今後も上手く連携させていただきたいと思う。地域の金融機関として地元に協力していきたいと思っている。

(A委員)

- ・全く違う産業や、活動では知り得ない方の話を聞くことができてとても良かったと思う。今回、委員会に携わるにあたり、歴史や立地、北区の魅力等のデータを含めて勉強をさせていただいたことで、新たに北区の魅力的部分や理解が深まったことが良かったと思う。
- ・私は2018年北区活性産業ビジョン、2023年シティプロモーションに参加させていただいたが、ビジョンはカーナビでいうと目的地だと思うので、それをいかに区民や北区の事業者が皆で共有できるかが成功の秘訣ではないかと感じた。
- ・2018年の産業活性化ビジョンの中で外国人の数を予想して立てた施策が、1回目で外国人の数が予想をかなり超えている結果になり、ビジョンを立てても変動するということを実感した。F委員がおっしゃったように、流動して変わっていくということを前提に、しなやかに変わっていけるような委員会が継続できるとより現実と理想が合致してより良い北区になるのではないかと考えた。
- ・北区に来て良いと思ったことは、経営者や人が個性的で面白い人が多いこと。時代が変わって、AIにのまれそうになっても最後は「人」が大事ではないかと思う。ビジョンと人の良さを共有できて活動できたらとても魅力ある北区になるのではないかと考えた。

(E 委員)

- ・昨年 10 月に北区ニュースで産業活性化ビジョンの公募委員募集があり、そこに応募して選んでいただいた。仕事を引退してから、地域社会への貢献を自分の中でテーマと考えていたので、このような形で関わることができて非常に嬉しく思う。このような会議の場で学識経験者の方、北区で事業を営んでいる方のご意見、お話を伺うことができてとても貴重な時間だった。
- ・私自身も何かに貢献しなければと思い、北区のことを委員に選ばれてから勉強した。委員になる前と後では北区について詳しくなったように思う。自分でも非常に勉強になったと思っている。今後については区民の参画、発信を謳われているので、どのような形で自分が貢献できるかということ自分をなりに考えていきたいと思う。

(P 委員)

- ・私は東京都の支援機関として第 1 回と第 7 回の 2 回に参加させていただいた。検討委員会の意見整理の資料やビジョンを拝見して、皆さんの北区の産業を活性化させるための強い想いを感じた。
- ・私は技術支援の機関なので、その目線でビジョンを拝見した。企業間連携を重要視されているビジョンになっており、私の今の業務は企業間連携を促進するような事業を行っているので、今後北区が具体的な施策をご検討される際にコーディネート事業やマッチング活動の事業を検討すると思う。私どもの機関としても協力させていただけたらと思う。

(Q 委員)

- ・本日初めて参加させていただいたが、ビジョンについては現状分析をしっかりとした上で多くの委員の皆さんのご意見を反映された素晴らしいビジョンができたと感じた。非常に勉強になった。委員長からも話があったが、東京都は様々な施策が増えていて、実施しているものも多くある。
- ・北区とは引き続き連携して、微力ながら区内の事業者の皆さん、区民の皆さんのお役に立ちたいと思う。

(R 委員)

- ・北区産業活性化ビジョンの策定にあたり、正副委員長の下、アドバイザー、F 委員、様々な業種の第一線で活躍される皆さんにお忙しい中、2 月から 7 か月間、委員を務めていただいたことに改めて感謝申し上げます。
- ・皆様のご発言を聞いて「楽しかった」「よい機会になった」という言葉を聞くことができたことは嬉しい限りである。今回のビジョンの使命として、地域産業の活性化と共に地域の様々な課題を解決していく視点は重要だと思った。
- ・今回導き出された将来像には、北区の産業の強化、活性化という視点と共に、区民の暮らしを豊かにしていこうという 2 つの視点が盛り込まれていたことに、皆様の北区へのご理解と深い愛情を感じた。区民と区、事業者の役割が明確にされたことによって、ビジョンが誰もが当事者として関心を持ってもらえるものにつながっていくのではないかなと思う。また、そのように伝えていかなければならないと改めて思った。
- ・区として示された役割の中で地域の調整役、コーディネーターの役割を果たせるよう、また、区民の皆様、事業者の皆様が北区に引き続き愛着を持って、北区で長く働いて、暮らすことに誇りをもっていただけるようにと職員一同改めて思った。
- ・本日が節目となるが、区民の方に広くお知らせしながらご意見を募り、良いビジョンという形で発信していけたらと思っている。引き続き皆様のご理解とご協力をよろしくお願いしたい。

(副委員長)

- ・H 委員がおっしゃられたように、学識経験者として、これだけ意見が広く活発になるとまとめることができるかどうか非常に不安になった。それくらい自由に意見が出たということは、やりがい、まとめがいを感じた委員会だと思った。
- ・その中でポイントが 2 つあると思う。実際にビジョンができ上がった後に実行できるか、実現できるかが大きなポイントだと思う。ビジョンは実現、実行できることが大事である。

1つ目のポイントは、資料の42ページが重要だと思っている。役割分担が明確でシームレスにつながっていくことが大事。今までは、施策は施策、ビジョンはビジョンとして役割分担されて、全部つながっていないということがよくある。つながっていることが素晴らしく、北区が一枚岩になっていて良いと思う。

2つ目のポイントはコンソーシアム。産業ビジョンは塊を作ることがセオリーで、その中で将来ビジョンの推進者がいない議論がよくある。学生や区民がいて、そういったことが盛り込まれていることは非常に重要だと思う。区民がいない産業ビジョンはあり得ないので、この2つが素晴らしいと思って参加させていただいた。逆に私の方が勉強させていただいた。7か月間大変お世話になった。

(委員長)

- ・委員長として最初に、委員になったら皆平等で、年齢などに関係なく自由に意見を言っていたきたいとお願いした。皆さんからたくさんの意見が出た。

先週、福井の青年部商工会議所の勉強会に行き、その後、長野市の商工関係者と今後の勉強会の打合せをしたが、地方は相当危機感が強くなっている。既に各地方は大正時代、明治時代の人口規模まで減少しており、特に若い経営者の危機感が非常に強い。父親世代の経験が役に立たない、人口が増加しているときの経験や体験が役に立たないということを感じている。

その中で、東京都は池で例えると一番深い場所なので、水がなくなっても気がつかないという話である。今回の委員会の中で皆さんの様々なご意見が出た。年を取っているから偉い、経験豊富だから正しいという時代ではなくなっている、是非これを機会に皆さんから色々な意見を出していただきたい。

今回は女性が7名いらっしゃるが、地方では全員男性のこともある。それでは日本は生き残っていけない。普段と違った方と知り合いになって飲みに行ったり、場合によっては仕事につながったりすると思う。これもネットワークなので新しいことをできたら良いと思っている。

私自身もやりたいことがあるので、皆さんにご協力をお願いするかもしれないが、よろしくお願いいたします。是非、ここでつながった関係を終わりではなくて新しいものにしていけたらと思う。

- ・E委員がかなり勉強されたそうなので、シニアガイド等を観光協会できれいと思う。京都市が講座を開講しており、私も受けてみようかと思って確認してみたらかなり厳しかった。講座を5か月間全部出席しないとダメなど厳しい。アクティブシニアなど色々な活躍の場もあると思う。そういった場を機会にして新しい時代に挑戦していけたらと思う。
- ・事務局も板挟みになって大変な思いをしていただいた。我々も好きに発言したので事務局が困ったと思う。後方の部隊がしっかりしているので我々も安心して取り回すことができた。改めて事務局、コンサルの皆さんに感謝の意を述べたい。

7 閉会

(事務局)

- ・最後に事務連絡が2点。1点目、資料4として前回の議事要旨を作成しているので、議事要旨につき誤り等あれば、9月1日(月)までに事務局にご連絡いただきたい。
また、本日の議事要旨も作成するので、後日皆様にお送りさせていただく予定である。
- ・2点目、この後の慰労会について、慰労会は17時から、北とびあ17階のレストラン「QUAD17」で開催する。16時50分頃から17階で受付を開始するので、参加される方はそれまでに受付を済ませていただくようお願いしたい。事務連絡は以上となる。
- ・以上をもって、第7回北区産業活性化ビジョン検討委員会を閉会する。皆様、長期間にわたり、本当に感謝申し上げます。

以上